

「もう一つのクリスマス物語 ー再会ー」

<前編>

(音楽) 讃美歌「ああベツレヘムよ」

ダン(ナレーション)わたしはだんという、ベツレヘム出身のユダヤ人です。毎年、この季節になると、わたしはもう遠い昔の、ある一つの出来事を思い出すのです。あれは今からかれこれ 32、3 年前、わたしが 5 つの時でした。

わたしはユダヤの山里のベツレヘムという小さな村の、宿屋の息子で、近くにはシメオンさんという人が住んでおり、その息子で同じ年のルベンとは、大の仲良しでした。

ルベン ダン。このごろ、たくさんの人がこの村に来るね。何があったんだろう。

ダン ルベン。お父ちゃんから聞いたんだけど、何でもローマの皇帝でアウグストという人が、世界中の人の数を調べるために、皆、生まれ故郷に帰って登録をするように命令を出したんだって。それで、このベツレヘムで生まれた人がみんな帰ってきているんだよ。

ルベン へえ。大変なんだね。でも、どうして人間の数なんか調べるんだろう。

シメオン 何を話しているんだね？

ダン ああ、シメオンさん。今ね、アウグストという皇帝が、どうして人間の数なんか調べるんだろうって話していたの。

シメオン 5 歳の男の子にしては、随分難しい話をしているんだね。

ダン うん、お父さんが話してくれたんだ。

シメオン え、お父さんがかい？ そうか、ダンの家は、宿屋だもんな。今は、いろいろな国からお客が来ているだろうな。そうか、君たちには少し難しいだろうが、知っていても損はしまい。教えてあげよう。

今、我々の国ユダヤは、ローマという大きな国に支配されている。そのローマは、支配している国から税金を取っているんだよ。それは重い税金だ。そのため人々は貧しく、生活はとても苦しい。それは君たちも知っているだろう。そう、ルベンの隣のハンナは 16 歳だか、そのハンナが、この間奴隷として売られていった。貧しくて生活ができないからだ。今度のことは、ローマの皇帝が人数をちゃんと調べて、もっと税金を取り立てるためなんだ。

ルベン それじゃ、僕たちにはどうすることもできないの？

シメオン そうさな。ユダヤの言い伝えによれば、救い主メシヤが現れ、外国の支配を打ち破り、我々に昔のような繁栄を取り戻してくれるという。そのメシヤの誕生を待つしか方法はないだろうな。

ヨセフ 恐れ入ります。土地の人とお見受けして、少しお尋ねしたいことがあるのですが。

シメオン 何ですか？

ヨセフ この辺りに、一晩泊めていただける宿屋はないでしょうか？

シメオン 宿屋ならたくさんあるでしょう。

ヨセフ それが、時期が時期だけに、どこも満員で断られてしまうのです。わたしもはナザレから旅をしてきて、とても疲れているのです。それに、妻は臨月なのです。

シメオン そりゃ大変だ。赤ちゃんが今にも生まれるんでしょう？ こんな人まで旅をしなければならぬなんて、ひどい命令だ。よし、ダン之家に聞いてみよう。

ナレーション こうしてシメオンさんは、その旅人夫婦を連れて、わたしの家を訪ねてきました。

ダンの父 困ったな。事情はよく分かりますが、何しろ見ず知らずの客同士を相部屋に押し込んでも、もうぎっしり満杯なんでね。

シメオン どんな部屋でもいいんですよ。いやね、奥さんが臨月なんですよ。ほかの人とは違って何とかありませんか？

ダン 父ちゃん、何とかしておくれよ。

ダンの父 実はわたしたちの寝るところもないくらいなんだけれど…。そうだ、うちの家畜小屋なら空いているんで、それでよければお泊めできますが。

マリヤ ありがとうございます。どんなところでも、夜露がしのげさえすれば結構です。

シメオン かわいそうになあ。遠いところを旅してきたのに、どこの宿屋にも泊めてもらえないとはね。ローマの皇帝の命令さえなければ、こんなことにはならなかったものを！

ナレーション その夜も大分更けたころでした。わたしは、慌ただしく父が何やら布切れなどをそろえて出ていく気配に、目を覚ましました。

ダン お父ちゃん。どうしたの？ 何があったの？

ダンの父 ああダン。起こしてしまったか。実は家畜小屋に泊まっていたお客さんに、赤ちゃんが生まれたんだよ。まだ夜中だから、お前は寝ていなさい。

ダン やだやだ、僕も行く。

(音楽) BGM「きよしこの夜」

ナレーション こうして父についてわたしが部屋を出た時、外はほんのり明るく、小屋全体が光っているように見えました。わたしは、どんな赤ちゃんか見たくて、そっと中をのぞき込みました。赤ちゃんは、動物がエサを食べる飼料おけの中に入れられ、すやすや眠っていました。すると、どうしたことでしょうか。数人の羊飼いが来て、その赤ちゃんを礼拝し、「天使のお告げのとおり、本当に救い主がお生まれになった。」と言って帰っていきました。わたしは興奮して、その晩はよく眠れ

ませんでした。

翌朝、わたしは、早速ルベンとシメオンさんに、そのことを話しました。

ルベン 本当かい？ もしその赤ん坊がメシヤなら、どうしてこんな家畜小屋なんかで生まれたんだよ。都エルサレムの大祭司様の屋敷とか、お金持ちの立派な部屋なら分かるけど。

シメオン それにね。両親はガリラヤのナザレから来たって言ってたろう。救い主はあんな田舎から出るなんて、聖書のどこにも書いてないんだよ。それに両親も貧しそうだし。そんなところで育っても、この国を救うような力なんかつきやしないさ。それに、羊飼いの言うことなんか信用しちゃいけないよ。やつらは安息日に仕事をして、律法を破っている。やつらは神の国には入れないのさ。

ダン うーん、そうかなあ。あの赤ちゃん、何かこう、とっても賢そうで、救い主に見えたけどなあ。

ナレーション そのナザレ出身の夫婦は、お父さんお名前をヨセフ、お母さんの名前をマリヤといいました。そして赤ちゃんにはイエスと名づけ、わたしの父の紹介で、近くに家を借り、住んでいました。イエス様もその家族も、どう見てもわたしたちと変わったところがなく、普通の家族でした。それで、あの晩のことは、広がらずにいつしか忘れられてしまいました。ただ一つ、変わったことと言えば、2年後のこと、不思議な格好をした人々が、ヨセフさんの家に訪ねてきました。何でも、はるばる遠い東の国から、救い主を拝みに来たということです。あの世の大きく輝く星は、今でもはっきり覚えています。

(ナレーションのバックで)

博士 1 おお、このお方じゃ。メシヤよ、わたしは黄金をおさげします。

博士 2 わたしは乳香を。

博士 3 わたしはもつ薬を。

ナレーション そして、そのあとヘロデ王が2歳までの子供を皆殺しにする事件が起きました。
(ナレーションのバックで)(複数。口々に)

兵士たち 殺せ、殺せー！ 一人も逃がすなー！

女たち お願い、殺さないで！ ああー！

ナレーション その日、わたしたち子供は小さくなって、家の中で息を潜めていました。そして気がついたらヨセフさんの家族がいなくなっていたのです。みんなは、イエスは殺されたと思っていました。

やがて年月がたち、わたしもルベンも18歳になりました。

ルベン ダン、僕はこんなベツレヘムみたいな片田舎で一生を過ごすのは嫌だ。これから町に出て、よい仕事を見つけて、立派な人間になりたいと思う。どうだい、君もいかないかい？

ダン 行きたいけど、僕は家を継がなければならないんだ。父もこのところ体が弱いし

…。

ルベン そうかい。じゃあ、こうしよう。20年たったら、エルサレムの神殿の前で会おう。そして、どちらが立派になったか、比べてみよう。僕は絶対に負けないよ。いいかい、約束だよ。

ナレーション 添えきり、わたしは、ルベンの消息を聞くことはありませんでした。そして20年の歳月が流れました。――

(音楽) (ブリッジ)

ルベン(ナレーション) わたしはルベンです。それでは、その後のわたしのことをお話ししましょう。わたしはこうして親友のダンを別れ、都エルサレムに出ましたが、決まった仕事がなく、ローマ軍のための道路工事や、陣地の構築などの仕事に借り出される人足仕事をしていました。そんなある日――。

ローマ兵 貴様、何モタモタしてるんだ。怠けるとこうだ！

(効果音) (ムチの鳴る音)

男 許してください。昨日からの熱で体が動かないんです。少し休ませてもらえれば、きっとまた働きますから。

ローマ兵 うるさい！ おれは、今すぐこの石を向こうへ運べと言ったはずだ。今すぐにだ。お前の体のことなんか聞いておらん。

男 でも、めまいがして…。

ローマ兵 えい、まだ言うか。この横着者めが！

(効果音) (再びムチの音)

ルベン やめろ！

ローマ兵 何だ、貴様は！

ルベン やめろと言ったんだ。

ローマ兵 ユダヤ人の貴様が、このおれに命令するのか。面白い。

ルベン いくら我々があなたたちに支配されているからといって、人の命まであなたたちのものではない。

ローマ兵 うるさい。つべこべ言うとなんか済まないぞ。これでも食らえ！

(効果音) (ムチの音)

ローマ兵 悔しいか、ユダヤの豚。悔しかったら、おれたちを打ち負かしてみろ。できもしないくせに。

ルベン この野郎！

ナレーション わたしは思わずカッとになって、近くにあったこん棒を取ると、ローマ兵に打ちかかりました。

ローマ兵 何だ貴様！ あ～～。う！

ナレーション わたしは殺すつもりはありませんでした。しかし気がつくと、ローマ兵はわたしの足元で額から血を流して、動かなくなっていました。わたしの頭からサーっと

血の気がうせました。

ルベン(モノローグ)ローマ兵を殺した！ 捕まったら死刑になる…。

ローマ兵2 おい、ガイオ、ガイオ！ 貴様！ おい待て、みんな、追え！

ナレーション わたしは夢中で逃げだしました。

<後編>

ルベン この人は病気です。休ませてやってください。

ローマ兵 何、貴様、盾突く気か！ こうしてくれる！

(効果音) (ムチの音)

ルベン …この野郎！

ローマ兵 何をする！ あ、う！

ルベン ああ、殺してしまった。

兵たち 追え、追え、逃がすな！

ナレーション わたしは夢中で逃げました。どこをどう走ったかは分かりませんが、とある路地を曲がった時に、近くの家^の戸が開いて、男の腕がわたしの体^を中にグイッと引き込みました。

首領 危なかったな。ローマ兵をやったのかい？

ルベン どうしてそれを？

首領 まず名乗らせてもらおう。わしはイッサカルだ。ローマの支配からユダヤを解放するために闘っている、熱心党の党首だ。お前さんの力を借りたい。

ナレーション そんなことから、わたしは反ローマの地下組織、熱心党の一員になってしまいました。それからのわたしは、いろいろなことをやりました。ローマ軍の駐とん地を襲い、何人ものローマ兵を殺しました。時には、ローマの軍隊と戦闘を交えることもありました。そして、何人もの同胞を失い、ますますローマ兵を憎むようになったのです。わたしはついにお尋ね者となり、首に懸賞金を懸けられるまでになってしまいました。

首領 ルベン、明日、エリコから一人の商人がエルサレムに向かう。そいつを襲って金を巻き上げてくれ。イエスとかいうやつに、献金を届けるらしい。ぬかるなよ。

ルベン 首領、わたしは前から臍^{へそ}に落ちないんですが、なぜユダヤ人を襲わなければいけないんですか？ 同胞ではありませんか。

首領 じゃあ、どうやって資金を得るのだ？ 手段を選んでいたら、自分たちの目的は達成できない。金持ちっていうやつは、ローマに協力してあくどくもうけている。そんなやつらは我らの敵。いいか、しっかりやってくれ。

ナレーション わたしは、金を奪うだけならと自分に言い聞かせ、エルサレムとエリコの間の^{ひとけ}人気のない街道で、部下数人と待ち伏せしました。

ルベン おい、いいか。金だけ奪うのだぞ。体には指一本触れるなよ。いいな？ これは

命令だ。

男たち

へい。

ナレーション

ほどなく、一人の商人が近づいてきました。その時、突然部下の一人が商人に剣を突き立て、命を奪って逃げ出したのです。一瞬の出来事でした。これは、足がつかないように、その部下が首領からひそかに命令されていたことだったのです。わたしは、思わず商人のところに駆け寄りました。彼は大ケガをしていました。わたしは、その顔を見てハッとしました。この顔は…。

ルベン

もしかして君は、ダン…。あのベツレヘム村のダンじゃないか？

ナレーション

そう。それは 20 年前別れたまま、会うことのなかった親友のダンでした。

ダン

うっ。どなたですか？

ルベン

ルベンだ。幼友達のルベンだよ。

ダン

ルベン？ お、おお、ルベンか。本当にルベンか？ そうだ、確かに君だ。どうしたのだ、ルベン？ 先週の日曜日に、わたしは神殿の前で君を待っていたぞ。

ルベン

先週の日曜日？

ダン

そうだ。先週の日曜日だ。20 年前の約束を覚えているだろう？

ルベン

ん？ ああ、そうだった。おれはずっかり忘れていた。許してくれ、ダン。おれは今、ユダヤの解放のために戦っているんだ。そして、資金調達のために、今日お前を襲ったのは、実はおれなんだ。

ダン

そうか。でも今日、このように君に会えたのは、神様のおぼし召しだよ。僕はね、君に負けないように一生懸命働いたよ。そして、宿屋を大きくしたんだ。今では、エルサレムにもエリコにも宿屋を持っている。

ルベン

それでエルサレムに行くのだな。君は、イエスとかいうやつとどういう関係なんだ？

ダン

ルベン、よく知っているね。そうだよ。僕はイエス様の弟子だ。そう、君も覚えているだろう？ 33 年前の夕方、君の父上のシメオンさんも一緒だった。その時、ヨセフとマリヤという人が訪ねてきたよね。そして、その晩に赤ちゃんが生まれたって教えてもらう？ その赤ちゃんのイエスこそ、本当にメシヤだったんだよ。わたしはお金もうけのために、随分とあくどいことをして、多くの人を踏みつけてきた。そんな時、エルサレムで、わたしは 20 年ぶりに、このイエス様に出会った。そしてこちらから願い出て、一晩お泊めして、じっくりとイエス様のお話を聞いてるうち、自分に罪深さに気がついたんだ。イエス様は、こんなわたしをそのままゆるで赦し、受け入れてくださった。

ルベン

しかし、いつまでたってもこの地の不公平はなくなる。現にローマの支配は続いているじゃないか。これを自分たちの力で跳ね返さなければ、本当の平和も自由もありはしないさ。

ダン

しかし、イエス様は違う。あの方は平和の君であられ、敵を愛し、多くの何の価

値もない者を愛し、しもべとして仕えられた。本当の公平と自由は、武力で敵を倒すことではないよ、ルベン。このイエス様に従い、敵を赦し、心から愛することによって、表現するんだ。

ルベン イエスに従う？ 愛？

ダン そう、愛だよ。イエス様は、君を心から愛しているんだよ。(苦しい息)ルベン、ぜひイエス様に会ってくれ。そして、あの方を信じてほしい。僕の君への友情は変わらないよ。僕は、主にあって君を赦す。ルベン…。君と天国で会えるのを待っているよ。

ルベン ダン、死ぬな！ ダン、ダン！

ナレーション ダンは、わたしの腕の中で静かに息を引き取りました。見たこともないような安らかな死に顔でした。と、その時です。

役人 ルベン、いよいよ年貢の納め時だな。来い！

ナレーション わたしは、通行人の通報によって、エルサレムから駆けつけたローマ兵に逮捕されてしまいました。獄中のわたしの元に、あのナザレのイエスのうわさは、次々に入ってきました。

ルベン(モノローグ)ダンの言ったことは本当だったのか。

ナレーション わたしは、心ひそかにイエス様を信じました。そして、一目でもこの方に会いたいと思いましたが、その機会もないまま、わたしは裁判にかけられ、ローマ帝国への反乱の罪で、死刑にされることになりました。

(音楽) (重苦しい感じ)

ナレーション ゴルゴタ、されこうべと呼ばれる丘の上に、3本の十字架が立ちました。その1本にはわたしが、そしてもう一方の端には、悪名高い強盗がつけられました。しかし、真ん中の3本目につけられる自分の十字架を負いながら、やっとたどり着いたお方を見て、わたしは驚きました。その方こそ、あのメシヤ、キリストイエスだったのです。イエス様は、十字架につけられると、こう言いました。

イエス 父よ、彼らをお赦してください。彼らは、何をしているか、自分で分からないのです。

ナレーション わたしの心の中を、衝撃のようなものが走りました。

ルベン(モノローグ)この方は… この方は、本当に、心から敵を赦している！

ルベン イエス様、あなたがみ国の権威を持ってこられるとき、わたしを思い出してください。

ナレーション すると、あの方は言われました。

イエス 今日、あなたはわたしと一緒にパラダイスにいる。

ルベン(モノローグ)イエス様、ありがとうございます。わたしは今、あの33年前の夜、あなたがベツレヘムのダンの家の家畜小屋で、生まれた時のことを思い出しています。あの時、幼かったわたしは、あなたの貧しさのみに目が奪われ、自らの盲目で

自己中心な心に気が付きませんでした。しかし、20年ぶりに再会したダンは、あなたの赦しのすばらしさをわたしに教え、その教えどおりに、彼を死に追いやったわたしを赦して、死んでいきました。わたしがもっと早く、あのベツレヘムのクリスマスの晩に、自分の罪と貧しさに気がついていれば、わたしの人生は変わっていたでしょう。でも今、この最後の時に、わたしはそのことに気づきました。そのわたしに、主よ、あなたは共にパラダイスに入る恵みをお与えくださいました。感謝いたします。

イエス
ルベン
(音楽)

(エコー) 父よ、我が霊を、み手にゆだねます。

主よ。わたしも今、み元に参ります。あなたの、永遠のみ国へ…。

(ハレルヤ・コーラス、高まって——。)

<完>